

平成 29 年度 第 7 回南区まちづくり懇話会 会議録

1 日時 平成 30 年 3 月 19 日（月） 午前 10 時から 11 時半まで

2 場所 熊本市南区役所 3 階会議室

3 (1) 出席委員

小山委員、海平委員、松浦委員、正木委員、吉村委員、岡委員（副会長）、芥川委員、宮澤委員、大澤委員、奥田委員、柴田委員（会長）、大村委員、藤本委員

(2) 出席職員

南区長、保健福祉部長、総務企画課長、区民課課長、飽田まちづくりセンター所長、天明まちづくりセンター所長、幸田まちづくりセンター所長、南部まちづくりセンター所長、富合まちづくりセンター所長、城南まちづくりセンター所長、保健子ども課長、福祉課長、保護課長、南農業振興課長

4 配布資料

- (1) 一会議次第
- (2) 一委員名簿
- (3) 一資料 1 「平成 29 年度第 6 回南区まちづくり懇話会委員意見」
- (4) 一資料 2 「南区まちづくりビジョンの改訂について」
- (5) 一資料 3 「南区まちづくりビジョン」
- (6) 一資料 4 「平成 29 年度南区のまちづくり推進事業の進捗状況」
- (7) 一資料 5 「平成 30 年度南区まちづくり推進経費事業一覧（案）」

5 次 第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ①南区まちづくりビジョンについて（報告）
 - ②平成 30 年度南区まちづくり推進経費について
- (3) その他

6 議事録

会長 今年度7回目の懇話会を始める。ご意見をいただいてきたビジョンについての報告がある。また、来年度のまちづくりについて、積極的なご意見をいただきたい。それでは、次第に沿って進めていく。事務局から説明をお願いします。

事務局 (説 明)

会長 質疑、意見交換に移る。お配りしているまちづくりビジョンについては3月5日に改訂済ということで報告となる。感想をいただければと思う。ここでいただいた意見は最大限に反映されている。今後の意気込みを含めて、ビジョンを改訂した。今年度の懇話会にとってはゴールだが、これはスタート。これはこれからやっていかななくてはならない。その一つの材料というか、予算的にはこの事業となるので、来年度に向けて、この懇話会自身も含めてそれぞれの団体でこんなことをしていきたいとか、懇話会でこんなことが議論できないかというようなことも含めてまちづくり推進経費の概要に対するご意見とか来年度に向けたことを発言していただきたい。

松浦委員 基本目標が6項目あるが、重要なことはプランである。目標ごとにプランをたてたら事業を進めるうえで達成できなくなるのではないかと思う。50万円の予算を使うのであれば、プランをたててやっていくと良いのではないか。

会長 重要なお指摘ありがたい。経費の割り振りを検討するにあたって、ここがポイントという説明を事務局をお願いします。

事務局 来年度の予算については、6項目にあてはめるとすべて網羅しているものではない。まちづくり推進経費事業の考え方として、予算を伴う事業については、区全体で取り組んでいたものに幅広く対応していたが、イベントについても区全体のまちづくりの事業が地域ごとのまちづくりへとシフトさせ、予算組みをしている。ビジョンにあてはめると、偏りができていると思う。まちづくりについては、予算を伴う事業だけではないので、予算を伴わない事業の中でも、できる限りビジョンのテーマを網羅できるように取組みを検討し

ていく。

会長 各基本目標を実現するために、まちづくり推進事業をどうやって実施していくのかという重要なご指摘だったが、事務局としては、各まちづくりセンターが行う事業に重点をおいていこうということだった。

吉村委員 次年度事業の5番に地域 ICT 利活用促進経費あるが、ICT 利活用とはどういうことをするのか聞いてないが、おそらく行政からの発信が主ではないかと想像しているが、自治会役員や校区自治協役員と書いてあるので、どこまで研修できるか心配するところである。フットパスだが、平成 30 年度の予算はいらないが、廃止したというだけではどうかと。年に 2 回くらいはイベントのようなものを主催してほしい。

会長 一点目の ICT はいかがか。

事務局 地域 ICT 利活用促進経費の事業内容についてご説明する。地域団体等の事務の軽減をはかることを目的として組み立てた事業である。平成 30 年度の 1 年目については、自治会の役員、校区自治協議会の役員を中心に会報等の作成講座としてワードを活用した研修と会計関係の講座としてエクセルを活用した研修を考えている。2 年目以降は SNS やクラウドサービスを活用した役員間の情報共有。3 年目については地域住民による地域情報の発信業務で 1 年 1 年ステップアップしていくような形での研修を考えている。フットパスについては、地域で受け皿となる団体を作っていたが、今年度は、美里のフットパス協会の方を講師に迎えて、各団体の活動内容について情報共有する場を設けて、団体の連携を図ったところ。平成 30 年度は予算措置は行っていないが、広報等行政として支援できる部分は支援していく。

会長 フットパスに関しては、9 月半ばに全国フットパスフォーラムが阿蘇を中心に開催される。全国のフットパスに取り組んでいる団体が集まり、こんなことを行っているという発表をする場になっており、私も運営に関わっているので、またそういったこともご紹介させていただきたい。

- 大村委員 11番に地域コミュニティづくり支援補助金とあるが、13番から17番とは違うのか。
- 事務局 11番は対象を校区自治協議会とその構成団体としており、地域の課題等を解決するための取り組みを支援する補助事業。
13番から17番については、まちづくりセンターが地域に出向いて、地域と一緒に課題を解決するための取り組みを事業化している。
- 会長 他にはいかがか。
- 正木委員 再三懇話会で出てきているが、地域の人たちに伝達がうまくできていない。区や地域で広報していると思うが、有線放送があるので、もう少し活用して、スポーツ大会とか全体的に参加できるものは有線放送で呼びかけていただくといいのではないか。
- 会長 そういったものを活用してはというご意見として伺っておく。他にはいかがか。
- 副会長 南区だよりがフリーペーパーで紹介するかたちになる。前回も問題になったが、そこで400万円出ていく。2000万円の予算の中で400万円はかなり大きい。地域エリアが800万円強、テーマに応じたものが400万円、1番と2番がだいたい400万円で5分割してそのうち5分の1をとっているという大きな事業になる。それが自分たちの中でできない、結局委託である。まちづくり推進経費なので、地域に密着した形の広報手段が考えられなかったのか。本庁で考えていることなので、南区ではどうしようもできないことかもしれないが、そういう意見は本庁にあげてほしい。
- 吉村委員 毎週フリーペーパーのコーナーに出るが、南区の記事はどれくらいの頻度で掲載されるのか。
- 事務局 各センターに対して年2回程度の記事が掲載される。
- 会長 南区としては他の予算でやっていただきたい。まちづくり推進経費としてはいかがなものか。ここはちゃんと議事録を残して本庁に

来年度以降見直しをしていただきたいと、南区としては強くアピールしておきたい。

松浦委員 配布率を確認した。城南町の豊田校区は、配布されないところが多いが、そこに対するサービスはどのようにするのが問題である。市に問い合わせると、広報やインターネットで伝達したと回答される。誰がどういう風に責任をとるのか。大きな事業については、責任が出てくる。どのように市が責任を持ってやっているか。城南町は広報誌が20万円できる。

会長 配布率の件はどうか。

事務局 配布率は市内全体で8割から9割で、配布されていないエリアもあり、南区はそのエリアが多い。情報に不平等があってはいけないので、南区から本庁に申し入れをしたが、平成29年度については未配布のエリアは各まちづくりセンターや区役所に必要部数をそろえて、取りにきていただく等の対応となった。

松浦委員 未配布の方々にどのようにして取りに来ることを伝えるのか。はっきりした答えがもらえない。住民のためのサービスなら住民のことを考えてもらわないといけない。サービスの質を落として経費をカットするのではなく、人件費をカットしてサービスを向上してもらわないといけない。

事務局 情報発信の件も含めて本庁に伝える。

会長 城南の住民の皆さんでつくる広報というのは年に何回つくる予定なのか。

城南所長 年に2回である。

会長 住民で広報をつくることは大事なことである。ひいては、まちづくりセンターで拡大していけたら素晴らしいと思う。ご意見を言っていない方から順番ご意見をいただく。

芥川委員 前回意見を申しあげたが、そのあと事務局から電話をいただいた。

今までいろんな会議に出てアンケートや意見を書いてと言われても反応がなかった。今回返事をいただいたことが始めてだったので、お礼を申し上げた。南区役所は一生懸命にやっていることがわかったので、うれしかった。また、この会について、皆が自由に意見を述べられる会にさせていただいたことに感謝する。皆の意見が出て初めて会議だと思う。勉強させていただき感謝する。

宮澤委員 子育て支援の立場から感想を述べさせていただく。来年度はここにあるように各地域エリアでの事業に重点をおくということなので、子育て支援の立場から言うと、子育て支援ネットワークでも各校区に子育てでそれぞれ頑張れるようやっけていただいている。前回の会で申し上げたとおり、各校区での温度差がある。それを踏まえ、現在、子育てでは子どもの貧困や虐待などが問題になっており、問題は保護者にあることが多いため、保護者の孤立などをできるだけ防ぐ必要がある。各まちづくりセンターの事業が来年度から多くなるので、地域の中で生活していく上で、地域の助けをいい形でできるように、それぞれのイベントの中で、それぞれ形は違うと思うが、子育て中のお母さんたちがうまく参加できて、地域の中で生活していくって精神的な孤立などをできるだけなくなるように、イベント等で発信するなど考えてほしい。

大澤委員 虐待など新聞に掲載されていたが、件数が増えており、熊本県は5位という順位であった。現在、各家庭のことをあからさまにできない、相談できない等の問題がある。昔は地域皆で子育てするような環境があり、親は仕事に行っても高齢者が教育したりなど、昔は安心・安全なまちづくりができていた。今は、個人情報等の関係であからさまに出てこないところもあるが、小学校などでは道徳教育とか、婦人会でも熊本県が推奨する「熊本のこころ」があり、老人会、婦人会、子ども会、保護者会と徳育三世代ということで連携し、今年度は婦人会でも年2回開催したが、子どもたちも近所の方から見られているという感覚で、地域ぐるみのしつけができて、好評であった。今後も地域で安心・安全なまちづくりに努めていきたい。

奥田委員 商工業者の立場で参加させていただき、皆さんの生の意見が聞くことができ、大変勉強になった。特に商工業の中でも工業だとかサービス業は、皆さんと切ってもきれない関係の中での成り立ちであ

るので、育てていただきたいという話もしたが、商工会が今年、発達支援計画という国の認定を受けて独自にいろんな事業に取り組み、住民の方の助けもいただきながら、埋もれた地域資源の発掘など参考にさせていただいた。皆さんとの関係の中で商工業を考えていきたい。

大村委員 初めてこのような会に参加させていただいて、勉強になった。地域ごとに問題があって、皆さんと議論していく場があるのだと知ることができ勉強になった。これを機に地域活動に参加していけたらと思う。

藤本委員 この一年を通して感じたことは、ワークショップがすごく楽しかった。2回参加させていただいた中で、南区や地域のためにこうしたらよくなるのではないかなどの意見を聞いて、皆さんが南区や地域の力になりたいし、役に立ちたいと思っているのだと感じて、うれしかったと同時にとても勉強になった。城南町の地域の方が広報誌をつくと聞いて、地域の困っていることなど皆で知恵を絞って広報誌をつくることは大事なことだと感じた。自分も今後何かできたらいいなと思った。

海平委員 南区のまちづくりの事業だが、着実に実行されているという状況で頼もしくうれしく思っている。まちづくりビジョンの中にもあるが、歴史の六殿神社の楼門、加藤清正がつくったといわれる南田尻の井樋橋など、富合だけでなく南区全体に加藤清正がつくった井出があるので、紐解いて大切に保存していくことが環境保全につながっていくのではないかと思う。是非、井樋橋の復興を進めてほしい。

小山委員 立派なものができて大変感謝している。前回白川のことを意見し、早速取り上げていただきありがたい。白川のことだが、南区では取り上げてもらっているが、西区で大々的に取り上げてもらっているのだろうか。白川は置き去りにならないだろうかという感想をもっている。梅雨が近づいているのでお願いしたい。

副会長 言い忘れたことが一点ある。地域エリアを生かしたまちづくり推進ということで、各まちづくりセンターでいろんな事業を展開されていくわけだが、各まちづくりセンターで、まちづくりセンターの

エリアの自治協議会やまちづくり団体が一同に会してまちづくりセンターのエリアのまちづくりの進め方を話し合う会議をさせているまちづくりセンターはあるか。

富合所長 富合は、話し合う場がある。

副会長 富合は1校区。南部は6校区。城南は3校区。天明は4校区。飽田が3校区。幸田は4校区。

飽田所長 自治連合会があるので、その中では飽田地区として話をするにはある。

副会長 せっかく、地域におりていくような事業なので、校区自治協議会が集まった機会に情報の共有や発信できる会議を年に何回かしていただくと、とてもいい形でお互いの情報交換ができる。校区自治協議会だけではなくまちづくり団体も一緒に入ることができるようなものを、今年から準備を始めて、次年度はそういう中でこういった事業ができたというのがあるといいのかなと思う。

松浦委員 城南は自治協議会主催で、会長、副会長、まちづくりセンターからも参加していただき会議をしている。

副会長 とても大事である。せっかく予算をつけてやっているのに、情報の共有ができるような会議を各まちづくりセンターにしていたら、まちづくり推進事業を盛り上げてほしい。

会長 校区自治協議会は地縁組織。まちづくり団体は南区全体を網羅しており、テーマコミュニティである。そのような方々が一同に会するという事は非常に大事である。今後検討をしていただきたい。来年度以降の懇話会だが、各まちづくりセンターをめぐっていくのはどうか。その場所のことを議論するという事も考えていいのかなと思う。ここで提案し、事務局とも相談させていただく。

区長 全7回の懇話会も終わり感謝申し上げます。おかげをもちまして、本年度の南区まちづくりビジョンの改訂は無事達成することができた。今後はこれをどう実現させていくかというところが一番鍵で

ある。委員の皆様方におかれましては、引き続き南区のまちづくりにご協力ご指導をぜひお願いしたいと思う。そして、今年の4月からまちづくりセンターができ、所長も入って会議を進めさせていただいている。地元にも密着し、一緒になってまちづくりを進め、そしてそれを支援していくというのが私どもとまちづくりセンターの役割と思っている。4月に着任して右も左もわからない状況であったが、懇話会で皆様からいろんな意見を聞かせていただく中で、南区はこういうまちなのだ、こういうすばらしいところがあるのだと実感した。できるところとできないところがあるが、できないところもできるだけできるように工夫していきたいと思う。